

経営比較分析表（令和2年度決算）

静岡県 御前崎市

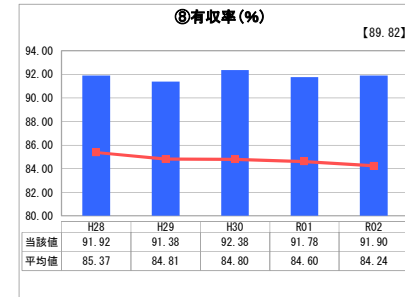
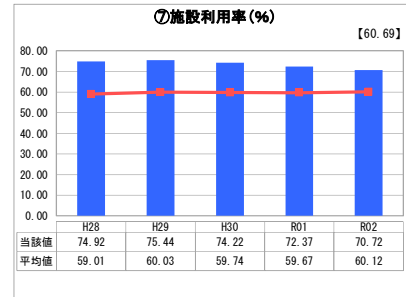
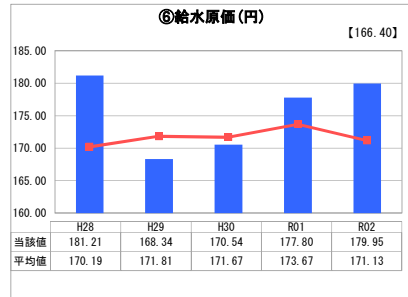
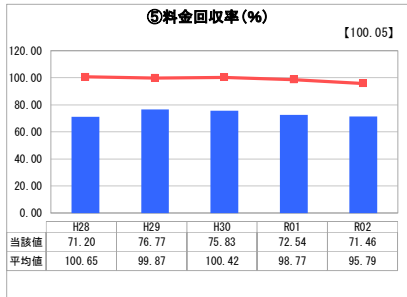
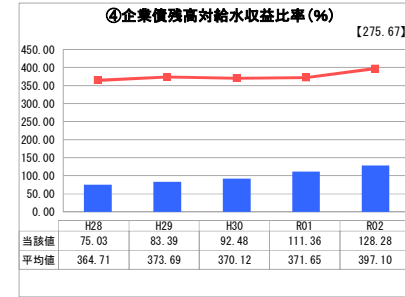
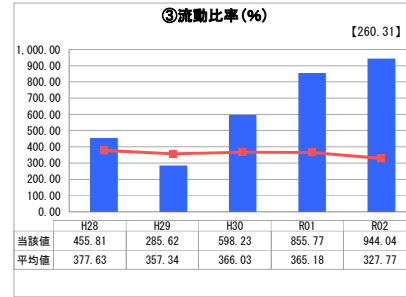
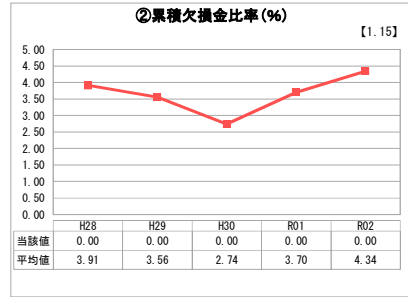
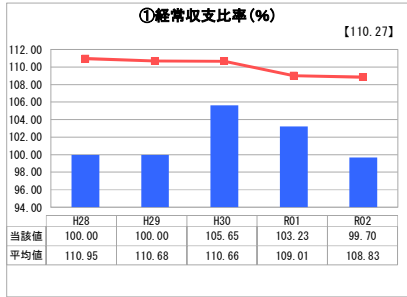
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	91.19	99.90	2,420	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
31,714	65.56	483.74
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
31,963	47.76	669.24

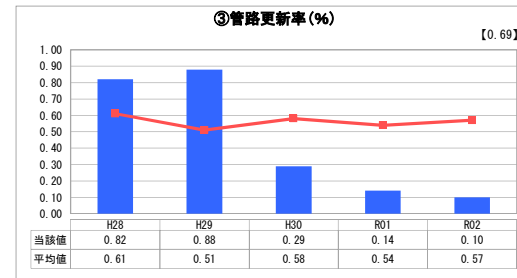
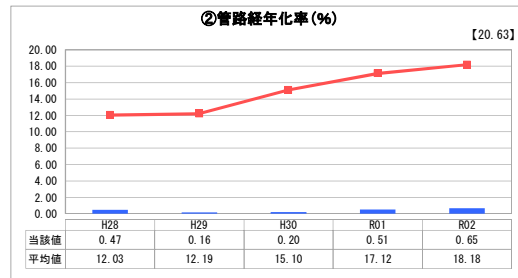
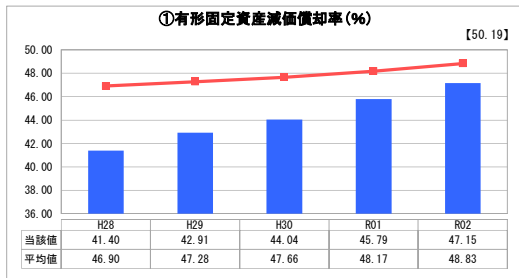
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

一般会計からの繰入金により、類似団体と比較して低価格で水を供給しているため、料金回収率が低くなっている。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、給水収益が減少し収支が赤字となった。そのため、経常収支比率が下降し、有収水量の減少に伴い給水原価が上昇した。現状の経営状況は、給水にかかる費用が料金収入で賄いきれず、独立採算による経営が成されていないため、累積欠損金は無いものの不健全な経営状況である。また、将来の更新需要等に備えるため、企業債当率を引き上げたことにより、現金が増加し流動比率が上昇した。なお、企業債残高対給水収益比率についても今後上昇していく見込みである。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は上昇傾向であるが、平成30年度に策定した老朽管更新計画に基づき、適切に老朽管の更新を行っているため、管路経年率は低く漏水量も少ないため、有収率が高水準で推移している。また、管路工事の件数が減少し、かつ、新設管の割合が多かったため、管路更新率が低くなっている。

全体総括

地方公営企業の経営に要する経費は、その経営に伴う収入をもって充てることが原則であり、現状の経営状況は、独立採算による経営が成されておらず不健全な経営状況である。現在の供給単価から給水原価を差し引いた損金は、早急に改善すべき点であり、料金改定を含めた経営の見直しを必要としている。そのため、令和3年度に上下水道料金等審議会を設置し、令和4年4月から料金を改定する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、市内の経済状況が悪化したため、当面の間見送られることとなった。